

令和4年(第50期)事業報告

(2022年1月1日～12月31日)

1. 事業の実施状況

(社会・経済情勢等)

新型コロナウイルスの災禍3年目を迎え、新たな変異株の発生を注視しつつも世界各国ではこの非常事態を受け入れ、その対応は一頃よりも落ち着きを見せはじめた。その矢先、2月にロシアによるウクライナへの軍事進攻が勃発し、疲弊した世界経済に新たな試練を突きつけた。両国の世界経済に与える位置づけはGDPとしてはさほど重要ではなかったが、その主要生産物の多くは国際的にも重要な位置づけを示しており、需給・供給の環が著しく乱れた結果、エネルギー問題では、電力価格の高騰を及ぼし、輸送費や施設・工場の負担増、鉄鋼、貴金属は施設建材および半導体製造への影響、石油製品は身近なパッケージフィルム等への高騰も促した。

また、両国の生産する小麦、大麦、トウモロコシといった農産品において食品の原材料および飼料業界は新たな供給先を含めた検討を余儀なくされた。

これに加えて戦争下における影響によりドル高傾向が進展し、総じて円相場下落につながったことで国内事業者の輸入原料等の取得費も増加。これらが相まった形で国内の食品業界全般への価格改定等の対応が予断なく進むこととなった。

一方で7月に選挙応援中の安倍元首相が凶弾に倒れた。これは戦後初のことであり、国内状況の不安の高まりを示すものとなった。9月には台風14号、15号が発生、近年の自然災害の広域および甚大化が変わらず引き続いている。

(食品業界の諸動向)

近年のコロナ禍による仕事、食事といった生活スタイルの変化に加え、ロシアによる戦

ロシア、ウクライナ両国が日本への主要な輸出品

ロシア	ウクライナ
液化天然ガス	たばこ類
石油(原油)	鉄鋼
白金	アルミニウム合金
アルミニウム合金	木材
石油化学製品	チタン
水産加工品	マンガン

ロシア、ウクライナ両国の主要な農産品(2020年)

ロシア	ウクライナ
小麦(世界3位)	小麦(世界8位)
大麦(世界1位)	大麦(世界9位)
トウモロコシ(世界10位)	トウモロコシ(世界5位)

貿易統計より作成

争行為は、両国のみならず世界規模でエネルギー問題、食糧問題等に波及した。わが国でも例外なく食品業界全体で動向を注視しつつ、原料高騰によるコスト増等の対応に追われ、年間を通して漸次値上げせざるえない状況となった。

民間の調査会社によると、2022年は10月をピークとして年間2万商品（平均値上げ率14%）が値上げされたとした。ただし現在もロシアの継続する戦争行為により、不安要素は解消とはならず、2023年以降も値上げが活発に続くものとみられている。

こうした動きに応じて、当然ながら食品量販店での特売は激減。消費者は節約等といった買え控えの動きを示し、先行きには不透明感が漂う。

また安定・拡大しつつある通販業界においては、with コロナとともに一服していくことも予見されるが、当面堅調に推移していくものとみられている。

（鯉節業界を取り巻く諸動向）

新型コロナの影響は他の食品と同様に鯉節・削り節業界にも例外なく波及。感染拡大により、さまざまな制限等が露呈し、業務の停滞や工場稼働率の低下等生産性の低迷にもつながることとなった。本年はこれに加えてロシアによる戦争の災禍が新たなエネルギー問題を生じさせるとともに、円安等の影響を受けて原料魚獲得の負担も増加した。これらにより鯉節・削り節関係事業者は節および削り節生産において、従前以上の厳しい環境に置かれるものとなった。

鯉節業界においては、近年、カツオの質の低下や隣接缶詰業界との競争が起こり、原料カツオの確保が厳しい傾向で推移している。こうした中、新型コロナ、原油高騰による操業船舶の停滞・低迷、漁業従事者の漸減はカツオの漁獲量の縮小を示し、結果、冷凍カツオ市場は高位安定での値動きとなっている。さらに円安により、節製造事業者は市場での購入の厳しさ（金額、数量等）が高まり、原料カツオの安定的獲得に困難を生じさせている。従前の繰り返しになるが、鯉節の製造に適したカツオがあり、大きさ、脂肪含有量等の要件が製造事業者にとって重視され、カツオであればなんでもよいということではない。節という性質上、製品化までの時間も他の食品よりもかかる。原料高に対し製品の値上げが追い付かないという大きな課題も目立つものとなった。

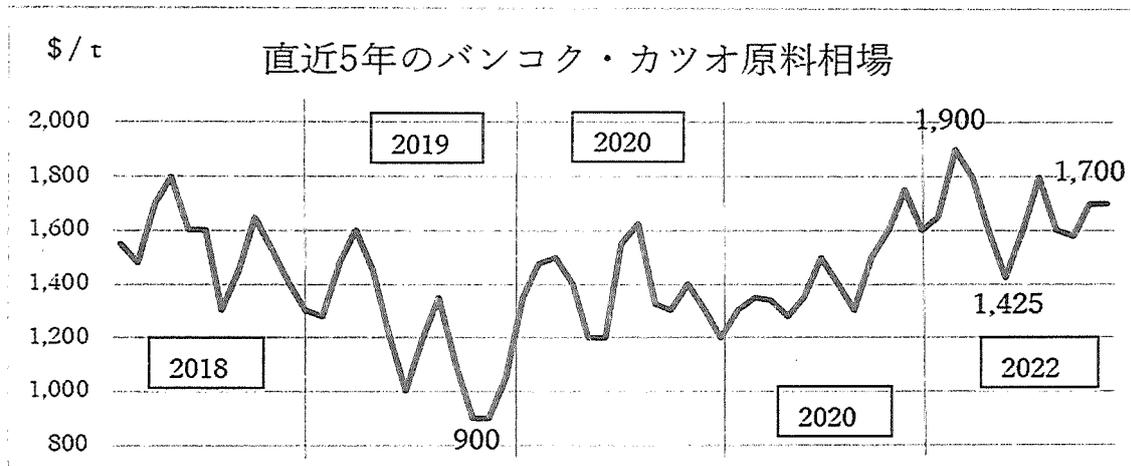
一方で11月にベトナムで開催された中西部太平洋マグロ類委員会において、カツオの長期的な管理措置が決定された。これはカツオ資源が安定しているとしながらも、日本近海では減少傾向であるとし、日本政府が策定を求めているものである。

先にも触れたように原油の高騰は、製造工場の稼働に負担を与えるだけでなく、カツオ漁船の重油燃料として操業にも影響をもたらすこと、さらに石油製品からなる包装資材の価格上昇や陸上での輸送費にも関わってくる。

これに鯉節の工程で重要な焙乾に使用する薪の価格も上昇。加えて工場に従事する外国人研修生の出入国の問題も出て、労働力の低下ならびに生産量への影響も大

きいものとなっている。

(参考)※2022年は大きく乱高下もあったが高位で安定。1700\$/tで越年。



(日本鯉節協会の活動)

総務関連では、リモートおよび書面での理事会を開催した。世相的に一定落ち着きを見せたものの、相対での通常開催には及ばなかった。全体的に活動自体が鈍くなりつつも、7月に開催された「全国カツオまつりサミットin気仙沼」に後援を行う等他団体との協力活動は継続した。また鯉節の新 JAS について、勉強会を行い、引き続き検討を継続することとした。

なお、長らく協会の主要組合として一翼を担ってきた土佐清水鯉節水産加工業協同組合が地

第 66 回全国水産加工たべもの展 節部門 受賞者一覧

元ソウダカツオの水揚げ量の減少による製造環境の悪化等が事業者の経営を圧迫して組合員が減少した結果、3月末で解散を決めた。

広報・情報宣伝関連では、大阪組合とともに主催者の一団体となっている第

農林水産大臣賞	(株)松村「枯鯉本節血合い抜き削」
水産庁長官賞	徳屋商事(株)「お茶漬け用に薄く仕上げた削り節」 (株)靱鯉節店「最高級枯本節血合抜薄削り」 山長商店(株)「まぐろ削りぶし(糸削り)20g 血合い抜き」 (株)ウエダ食品「卵かけご飯がおいしくなる宗田削り節」
大阪府知事賞	かね七(株)「いわし削り節ふりかけ 2.5g×5p」 (有)中野「かつおチップス ぱりこ」 カネサ鯉節商店「田子節 本枯れ鯉節削りぶし」 (有)富樫政雄商店「さけ・かつお花混合」 大洋かつを(株)「まぐろ削りぶし (糸削り)」 野本商店「うるめ節 うす削り」 (株)大吉商店「まぐろ血合い抜きすがき」 中屋食品(株)「鯉本枯節花削り」

66 回全国水産加工たべもの展が滞りなく開催された。節部門の栄えある農水大臣賞は、榑松村の「枯鯉本節血合い抜き削」が受賞した。このほか各種イベントが再開され当会もブース出展を行った。6 月には、第 17 回「食育推進全国大会 in あいち」が来場者を入れて行われた。2 年前の愛知大会は一度中止となり、昨年の岩手大会はオンライン開催、実開催としては 3 年ぶりとなった。コロナ対応を徹底して行った上で、各種体験コーナーや展示、講演等を催し、2 日間で約 23,000 人の来場者があった。当会と全国削節工業協会も協同でブース運営を行い、試食や削り体験、アンケート調査等、来場者と活発にやりとりした。11 月には第 61 回農林水産祭“実りのフェスティバル”が東京・池袋サンシャインシティで行われ、2 日間で約 15,000 人が来場した。当会はブースを出展し、低廉な価格での削り節等の提供を行った。一方で、テレビ・雑誌等マスコミで鯉節・削り節が取り上げられる機会があり、使い方やだしの取り方、そして栄養面等の問い合わせに適宜対応した。また協会HPのリニューアルを行った。HPでは消費者、会員事業者向けに整理し、見やすく、わかりやすいものに仕上げている。なお会員への FAX 情報通信は 222 回を数えた。

流通改善関連において、引き続き状況が厳しいことを踏まえ第 21 回全国鯉節類品評会の延期を決断した。また各産地においても安房地区を除き、入札会の中止を余儀なくされた。

技術研究関連では、「かつおぶし、けずりぶしのPAHガイドライン」(第 2 版)を会員に配布した。

総務部

- 2月 4日 理事会開催、第 49 期総会提出の議案書を審議、承認
- 9日 監査会開催
- 3月 29日 第 49 回通常総会開催 (於：東京) — 全議案原案どおり承認・可決
- 4月 8日 令和 4 年度会費請求
- 9日 全鯉青東京大会開催—高津会長出席
- 5月 27日 理事会 (書面) 開催、品評会の開催日等の変更を決議
- 27日 全国削節工業協会、通常総会開催 (於：東京) — 高津会長出席
- 7月 22日 第 3 回全国かつおまつりサミット in 気仙沼に後援 (23 日まで)
- 11月 18日 理事会開催 (於：東京)、事業執行状況等確認、牛深加工部の会員資格変更を承認

広報・情報宣伝部

- 3月23日 第66回全国水産加工たべもの展開催—農水大臣賞に㈱松村「枯鰹本節血合い抜き削」、大阪府知事賞にカネサ鰹節商店「田子節 本枯れ鰹節けずりぶし」、(有)中野「かつおチップス“ぱりこ”」らが受賞
- 3月 「土佐節」パンフレット作成に協力—登録無形民俗文化財登録で
- 6月15日 第21回全国鰹節類品評会の延期を発表
- 6月18日 第17回食育推進全国大会に出展(愛知・19日まで)
- 9月 宝島社ムック本「だしを極める」に写真提供等協力
- 〃 協会HPリニューアル公開
- 11月11日 農林水産祭「実りのフェスティバル」に出展(東京・12日まで)
- 22日 農水省の和食授業に協力
- 12月2日 東かがわ市のかつおだしを使った郷土料理講習に協力

流通改善部

- 6月27日 焼津大入札会中止を発表
- 9月 さつま入札会中止
- 10月15日 第62回安房地区加工連節類共販会開催

技術研究部

- 10月 「PAHガイドライン」(第2版)を会員に配布
- 12月14日 ガイドライン支援部会開催

その他(会員および業界の動向)

- 1月28日 カツオ学会、カツオフォーラムin高知でにんべん・高津社長がオンライン基調講演
- 4月1日 改正個人情報保護法施行
- 19日 焼津組合、長野県に100万円寄付—企業版ふるさと納税
- 26日 焼津組合、伝統技術研鑽会を開催—若手後継者に実技指導
- 5月11日 焼津組合、新JAS規格および表示で勉強会開催
- 6月7日 内閣府、令和4年度「規制改革実施計画」を公表—冷凍カツオ水揚げ漁港に監視カメラ設置等
- 8月27日 東京組合・㈱安倍鰹節、安倍キミ氏逝去
- 8月 ヤマキ㈱、「氷熟®」20周年でリニューアル発売
- 〃 ㈱極洋「第11わかば丸」竣工
- 10月1日 貝印社、鰹節削り器「さつまおごじょ」を値上げ
- 10月 ヤマキ㈱、家庭用で世界初のMSCかつお節商品2商品発売

- // 水産庁、毎月3～7日を「さかなの日」に制定
- 11月 3日 秋の叙勲、京都鯉節(株)会長で元全国削節工業協会副会長の志村雅之氏が旭日双光章受章
- 24日 枕崎組合「かつお節サミット&フォーラム」開催～鯉節とSDGsテーマ
- // 水産経済新聞、「鯉節の日」特集
- // 京都鯉節(株)、「京鯉まつり いいふしの日」開催
- 28日 中西部太平洋マグロ類委員会、カツオの長期的な資源管理措置を決定
- 12月 マルトモ(株)、杉村太蔵氏とコラボ企画で通販新商品

(※太字は特記事項)

2. 会員の状況

	04.1.1 現在会員数	増減	04.12.31.現在会員数
組合会員	13	—	13
一般会員	34	—2	32
合計	47	—2	45

3. 会議の開催

開催日	名称	議題
2月 4日	理事会	第49期総会提出議案書を審議
3月29日	第49回総会	令和3年度事業報告および平成4年度事業計画
5月27日	理事会	全国鯉節類品評会の日程変更を審議
11月18日	理事会	令和4年事業執行状況等確認、牛深加工部変更承認